

2020年3月期第2四半期 決算IR説明会 質疑応答概要

株式会社メイテック

1. 日 時 2019年11月7日(木) 16:00~16:35

2. 場 所 東京本社 7F カンファレンスルーム

3. 質疑応答

質問 稼働率低下の理由(説明資料 P9, P10)として、新卒エンジニアの増加と、配属先業務の厳選をあげていますが、新卒を除いた稼働率も若干低下しています。

これは、業務の厳選をしたことだけが要因なのか、あるいは、一部開発投資を縮小している顧客もいると思いますので、そのような要因も含まれているのでしょうか。

回答 業務の厳選を行ったことが要因です。昨今の技術革新のスピードは速く、激しく変化するお客様のニーズに対応できるキャリアを形成するということにこだわりました。

質問 配属先業務を厳選するという話は現中期経営計画を出した当初からあり、1年前、2年前の決算説明会では業務を厳選しながらも、高い稼働率を維持できているとお話されていましたが、今期は今まで以上に、業務の厳選を強化したということでしょうか。

回答 基本的な考え方は変わっていませんが、これまで以上に、より厳選した配属を行いました。CASE、IoT、AI等の領域は、開発の速度が速く、お客様の変化が非常に激しくなっており、その変化に追従するための強化を図りました。

質問 採用状況(説明資料 15P)について教えてください。上期の採用が順調で、通期中途採用目標を少し引き上げたとのことですが、背景を詳しく教えてください。

回答 あらゆる企業で事業再編、統合・売却など激しい動きが起こっている中で、雇用を担保しながら、生涯にわたってエンジニアとしてのキャリアを獲得できるという当社の魅力を訴求してきたことが、一定程度奏功していると考え、目標を引き上げました。採用基準は変えませんが、地道な取り組みにはなりますが、これからも採用ブランド力を高めていくことが必要だと考えています。

質問 現中期経営計画で掲げていることに対して、うまくできていること、あるいは次期中計に向けての課題として認識していることについて、今時点の社長の見解を教えてください。

回答 現中計は、お客様の技術開発の進化が激しいということを前提とした上で、価値提供ができるようなキャリア形成ということと、同時に、もうひとつは、日本社会においては、技術に対する評価、そして価格はまだまだ低いということですので、我々がお客様に提供している技術サービスにかかわる対価をいかに引き上げていくのかということにこだわってまいりました。技術立国日本において、技術というのは非常に重要なファクターであり

ますし、かつ、それを担うエンジニアの存在は重要な部分ですので、そのアウトプットの技術にこだわるということに取り組んでまいりました。今期の決算においても、稼働率は若干下回りましたが、対価の向上には寄与したと考えております。

一方、お客様のニーズの変化、技術革新のスピードは想像以上ですので、それに対する即応力にはまだまだ課題があると思っています。

質問 新卒採用の説明（説明資料 P15）で、「地元への就職志向が強い」とありましたが、これに対して具体的に取り組んでいる施策があれば教えてください。

回答 大事なのは、理工系の学生がメイテックグループに入ると、エンジニアという職業で、自分の夢や、希望が叶えられるということや、空飛ぶ自動車や、宇宙旅行等、ワクワクするような開発テーマがたくさんある中で、それにチャレンジができるんだということの思い、希望という部分を理解いただくことと考え、地道に取り組んでいます。

質問 エンジニア紹介事業について、状況を詳しく教えてください。

回答 お客様の採用意欲はまだ旺盛ですが、この上半期では厳選して採用するという傾向が顕著にみられました。下半期もその傾向は大きく変わらないと想定し、前年に対して若干減益という見通しを立てております。

質問 その状況を踏まえ、今後取り組む施策があれば教えてください。

回答 転職者の方々の可能性を引き出し、満足いただけるキャリアカウンセリングを行い、そしてお客様に対して、ニーズの引き出しや、紹介した方がどう貢献できるかを訴求する力を今まで以上に高めて参ります。

以上